

2016年(平成28年)12月9日(金曜日)

ニューモラル  
心を育てる一日一話

●相手の立場に立った「お世話」

Kさん(64歳)が義父の介護を始めた当初のことです。寝たきりの義父は、オムツ交換をしようとしても全身を硬直させるばかりで、食事を口に運んでも口を動かさずとじまぜん。その非協力的な態度を、Kさんは心の中で打つこともありませんでした。しかしあるとき、「相手の立場になる」という言葉を思い起したKさんは、こう反省したといいます。「一所懸命にお世話をしてきたけれど、お父さんの立場になって考えたことは一度もなかった。お父さんは私にオムツを替えてもらうことが嫌なのではなくて、自分の体を使うように動かさないことがつらいのではないか。それなのに、私はお父さんの気持ちに心を向けず、時

間とにらめっこをしてオムツを替えていた。相手の気持ちになるのは難しいことです。しかし他者の心の痛みに共感しようとする中で、自身の愛情や優しさも引き出されるのではないのでしょうか。

■公益財団法人モラロジー研究所

千葉県柏市。倫理道徳の研究とこれに基づく社会教育を推進する研究教育団体。大正十五年、法学博士・廣池千九郎によって創立。以来、一貫して人間性・道徳性を育てる研究・教育・出版事業を展開。心を育てる月刊誌『ニューモラル』のほか、生涯学習に関する雑誌・書籍を発行。関連の麗澤大学、麗澤中学・高校、麗澤幼稚園(千葉県柏市)、麗澤瑞浪中学・高校(岐阜県)では、モラロジーに基づく「知徳一体」の教育を進めている。

月刊誌『ニューモラル』見本誌を贈呈

住所・氏名・電話番号・「房日新聞」を明記の上、下記へ。

■お申し込み先  
〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1  
モラロジー研究所出版部  
TEL:04-7173-3155  
FAX:04-7173-3324



定価:40円

2016年(平成28年)12月16日(金曜日)

ニューモラル  
心を育てる一日一話

●誰もが持つ「宝」

『法華経』に「衣珠(えしゆ)の喩(たとえ)」という物語があります。ある男が親友を訪ねた際、歓待を受け、酔いしれて眠ってしまいました。そのとき親友は仕事に出かけなければなりませんでしたが、男を起すに忍びず、高価な宝玉を着物の端に縫い込んでおきました。

その後、目覚めた男は他国へ赴(おもむ)きますが、落ちぶれて、衣食にも事欠くようになりまし。そしてある日、男はこの親友と再会します。親友は零落(れいらく)した男の姿を見て、悲しんで言いました。「僕は

君が安楽に暮らせるようにと、君の服の端に宝玉を縫い込んでおいたのに、どうしたのかね」と(参考)『法華経入門』(祥伝社)。

人は、自分自身の心の中に備わった「宝」の存在に気づいていないことが多いのではないのでしょうか。私たちは、一人ひとりが貴重な存在です。「この点を自覚し、内に秘めた「宝」がさらに価値あるものになるよう、磨いていきたいものです。

(モラロジー研究所刊)『ニューモラル』心を育てる言葉 366頁



定価:40円

月刊誌『ニューモラル』見本誌を贈呈  
住所・氏名・電話番号・「房日新聞」を明記の上、下記へ。  
■お申し込み先  
〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1  
モラロジー研究所出版部  
TEL:04-7173-3155  
FAX:04-7173-3324



2016年(平成28年)12月23日(金曜日)

ニューモラル  
心を育てる一日一話

● 借りたものは返せば済むが……

お歳暮の季節になりました。お歳暮はもと  
もと、年の変わり目に先祖の霊を迎えて祀  
(まこ)る「御霊祭(みたままつり)」のお供  
え物であったといわれます。いのちのつなが  
りと、それを生み出した源への感謝の気持ち  
を表したものだといえるでしょう。

この「つながりに感謝する」という気持  
ちは、昔の人がよく言った「借りた物は返せば  
済むが、受けた恩は決して消えない。人から  
受けた好意には、いつまでも感謝する心を忘  
れないように」という言葉とも、何か共通す

るものを感じます。一方で、先人たちは「人  
にしてあげたことは、すぐに忘れなさい」と  
も言いました。恩を売るようではいけない、  
ということでしょう。

私たちはさまざまなお返しを感じ、感謝する気  
持ちは忘れないようにしたいものです。まず  
は今年一年、お世話になった人のことを、思  
い起こしてみませんか。

(モロジ)研究所刊『ニューモラル心を育てる言葉366日』



月刊誌『ニューモラル』見本誌を贈呈  
住所氏名・電話番号・房日新聞  
を明記の上、左記へ  
■お申込み先  
〒277-8604 柏市光ヶ丘2-1-1  
モロジ研究所出版部  
TEL 0477-173-3155  
FAX 0477-173-3324

2016年(平成28年)12月30日(金曜日)

ニューモラル  
心を育てる一日一話

● 通い合う慈しみの心

新渡戸稲造(にどべいなそう) (一八六二〜一九三  
三)がドイツに留学していたときのお話です。  
ある日、公園へ出かけた稲造は、四十人ほ  
どの孤児を連れてカトリックの尼僧に出会  
いました。孤児たちは、母親と遊ぶ同年輩の子  
供を「ちやましそつ」に見ています。

折しもその日は稲造の母親の命日でした。  
稲造は母の霊前にお供えをする代わりにと考  
え、牛乳売りに「あの子たちに牛乳を一杯す  
つ飲ませてください。代金は私が支払います  
が、そのことは言わず、申し出を受けてくれ

るかどうかを尋ねてください」と頼みました。  
尼僧はこの申し出を快く受け、子供たちも大喜  
びです。そして皆が牛乳を飲み終わると、尼僧  
は「どなたがご馳走(ちそう)してくださいましたか  
分らないので、賛美歌を歌ってお礼に代えま  
しょう」と。子供たちのかわいらしい歌声を聞  
いた稲造は、母の命日にふさわしいことができ  
たと感じて、心が満たされたのでした。

(モロジ)研究所刊『ニューモラル心を育てる言葉366日』



月刊誌『ニューモラル』見本誌を贈呈  
住所氏名・電話番号・房日新聞  
を明記の上、左記へ  
■お申込み先  
〒277-8604 柏市光ヶ丘2-1-1  
モロジ研究所出版部  
TEL 0477-173-3155  
FAX 0477-173-3324

2017年(平成29年) 1月13日(金曜日)

ニューモラル  
心を育てる一日一話

● 大切な「親との時間」

「親孝行したいときには親はなし」という古言が生まれたのは、平均寿命が今よりずっと短かったころのことです。しかし、長寿の時代を迎えた今でも、親を看取(みと)った後に「もっとよくしてあげられたらよかった」という思いにさいなまれる人は、少なくありません。

成人した子供が親と一緒に過ごせる時間は、意外に短いものです。例えば四十歳前後の子供が、離れた場所で独立して暮らしていったとします。その親が六十代後半であれば、現在の平均寿命から考えて、親の寿命はあと二十年というところでしょう。仮に、親子が顔を合わせて一緒に過ごす時

間が一年間で十日、一日につき九時間だとすると、二十年間では千八百時間、七十五日分というところになります。この限られた時間をどのように過ごすかを、大切に考えていきたいと思います。

【モロロジー研究所刊】『ニューモラル心を育てる言葉366日』

■公益財団法人モロロジー研究所

千葉県柏市。倫理道德の研究とこれに基づく社会教育を推進する研究教育団体。大正十五年、法学博士・廣池千九郎によって創立。

以来、一貫して人間性・道徳性を育てる研究・教育・出版事業を展開。心を育てる月刊誌『ニューモラル』のほか、生涯学習に関する雑誌・書籍を発行。関連の麗澤大学、麗澤中学・高校、麗澤幼稚園(千葉県柏市)、麗澤瑞浪中学・高校(岐阜県)では、モロロジーに基づく「知徳一体」の教育を進めている。

月刊誌『ニューモラル』見本誌を贈呈 ※一人様毎限り

住所・氏名・電話番号・「房日新聞」を明記の上、下記へ。

■お申し込み先  
〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1  
モロロジー研究所出版部  
TEL: 04-7173-3155  
FAX: 04-7173-3324

ニューモラル  
心を育てる一日一話

● 「正しいこと」の用心

「正しいこと」を言い、「正しいこと」を行おうとしているのに、いつの間にか周囲から疎(うと)まれるようになっていった、という経験はありませんか。

社会の秩序を保つためには、ルールやマナーを守るという「正しいこと」は大切です。一方、家庭や職場、地域などの身近な生活の場では、「正しいこと」を振りかざして周囲を非難ばかりしては、決して良好な人間関係を築けないでしょう。

私たちは人の不正はよく見えても、自分

の間違ひにはなかなか気づきません。知らず知らずのうちに周囲に迷惑をかけていることもあるでしょう。自分がそれを指摘されたら……と考えることも大切です。どんなときも相手の立場や状況を思いやり、謙虚な心で行動できる人こそ、皆から親しまれ、よき人間関係を築いていけるのではないのでしょうか。春風のように温かな人柄をつくっていききたいものです。

【モロロジー研究所刊】『ニューモラル心を育てる言葉366日』

月刊誌『ニューモラル』見本誌を贈呈



住所・氏名・電話番号・「房日新聞」を明記の上、左記へ。  
■お申込み先  
〒277-8654 柏市光ヶ丘2-1-1  
モロロジー研究所出版部

TEL: 04-7173-3155  
FAX: 04-7173-3324

2017年(平成29年)1月20日(金曜日)

ニューモラル  
心を育てる一日一話

●いのちを受け継ぎ、引き継ぐ

昔から「子は室」といいますが、子育てには苦労だけでなく、それに勝る喜びがあったはず。そうした中で一人ひとり大切に育てられ、親から子へ、子から孫へと代々「いのち」が伝えられてきたからこそ、今の私たちがあるのでしょう。

また、ここでは「いのち」と共に、生きていくための知恵、言葉、生活習慣、道徳や価値観、そして家庭に伝わる料理といったものも、前の世代から次の世代へと伝えられてきました。いつの時代も、家族は

「いのち」と文化を受け継ぎ、それを次の時代に伝える役割を果たしてきたのです。私たち一人ひとは、こうした「いのちのバトン」を受け継いできた、大切な存在です。そして、そのバトンを次の世代に引き継いでいくという重要な使命を帯びているのではないのでしょうか。

(モロロジー研究所刊) 『ニューモラル心を育てる言葉』366日

月刊誌『ニューモラル』見本誌を贈呈



住所氏名・電話番号・房日新聞を明記の上、左記へ。  
■お申込み先  
〒277-8604 柏市光ヶ丘2-1-1  
モロロジー研究所出版部  
TEL 0477-173-33155  
FAX 0477-173-33324

2017年(平成29年)1月27日(金曜日)

ニューモラル  
心を育てる一日一話

●モノに当たっていませんか？

自分の思うようにならない状況に直面して怒りや不満を覚えた経験は、誰にでもあ。りでしょう。しかし、その感情をどのように処理するかは人によって違います。高ぶった感情をそのまま言葉や態度に表す人。表に出さず、自分の心の中で押し殺す人。中には、つい身近なモノに当たってしま。うという人もいるのではないのでしょうか。

感情を持たないモノからは、どう扱って。も反論は返ってきませんが、そもそもモノ。自体に罪はありません。勝手な感情をぶ。つ

けるのは筋違いというものでしょう。

車や電話、靴、食器など、日々使うモノに向けて、お世話になった人にすると同じように「ありがとう」と声をかけてみましょう。それでモノが喜んだり元気になったりするわけはありませんが、自分自身の感謝が引き出され、心が豊かになるのです。それを日々積み重ねるうちに、豊かな人間性が育まれていくでしょう。

(モロロジー研究所刊) 『ニューモラル心を育てる言葉』366日

月刊誌『ニューモラル』見本誌を贈呈



住所氏名・電話番号・房日新聞を明記の上、左記へ。  
■お申込み先  
〒277-8604 柏市光ヶ丘2-1-1  
モロロジー研究所出版部  
TEL 0477-173-33155  
FAX 0477-173-33324